B-14

取扱注意

昭和 41 年度営農援助計画について

1. ボリビア国サンファン移住地（別冊発刊済）
2. ブラジル国ジュセリノクビチェッキ植民地
3. ブラジル国第2トメアス移住地
4. ブラジル国ラーモス移住地その他
5. アルゼンティン国アンデス移住地
6. アルゼンティン国ガルアペー移住地

昭和 42 年 5 月

海外移住事業団

海外移住事業団
JEMIS
昭和 43. 7. 8
ARY

国際協力事業団
受入月日 '84. 8. 20
702
81
EM
登録No. 13247

ま　え　が　き

さきに，昭和 41 年度営農指導援助計画として，サンファン移住地分を発刊したが，このたび，ジュセリノクビチェッキ植民地，第2トメアス移住地，ラーモス移住地その他アンデス，ガルアペー移住地分がそれぞれ該当支部より報告あったので，ここにとりまとめ，前回同様趣旨をもって発行することとした。

移住地の現状と問題点ならびにその対策を知り，営農指導計画，その実施状況をみるには貴重な資料と思われる。参考とされたい。

なお，昭和 42 年度分についても近々とりまとめ発刊の予定。

以　上

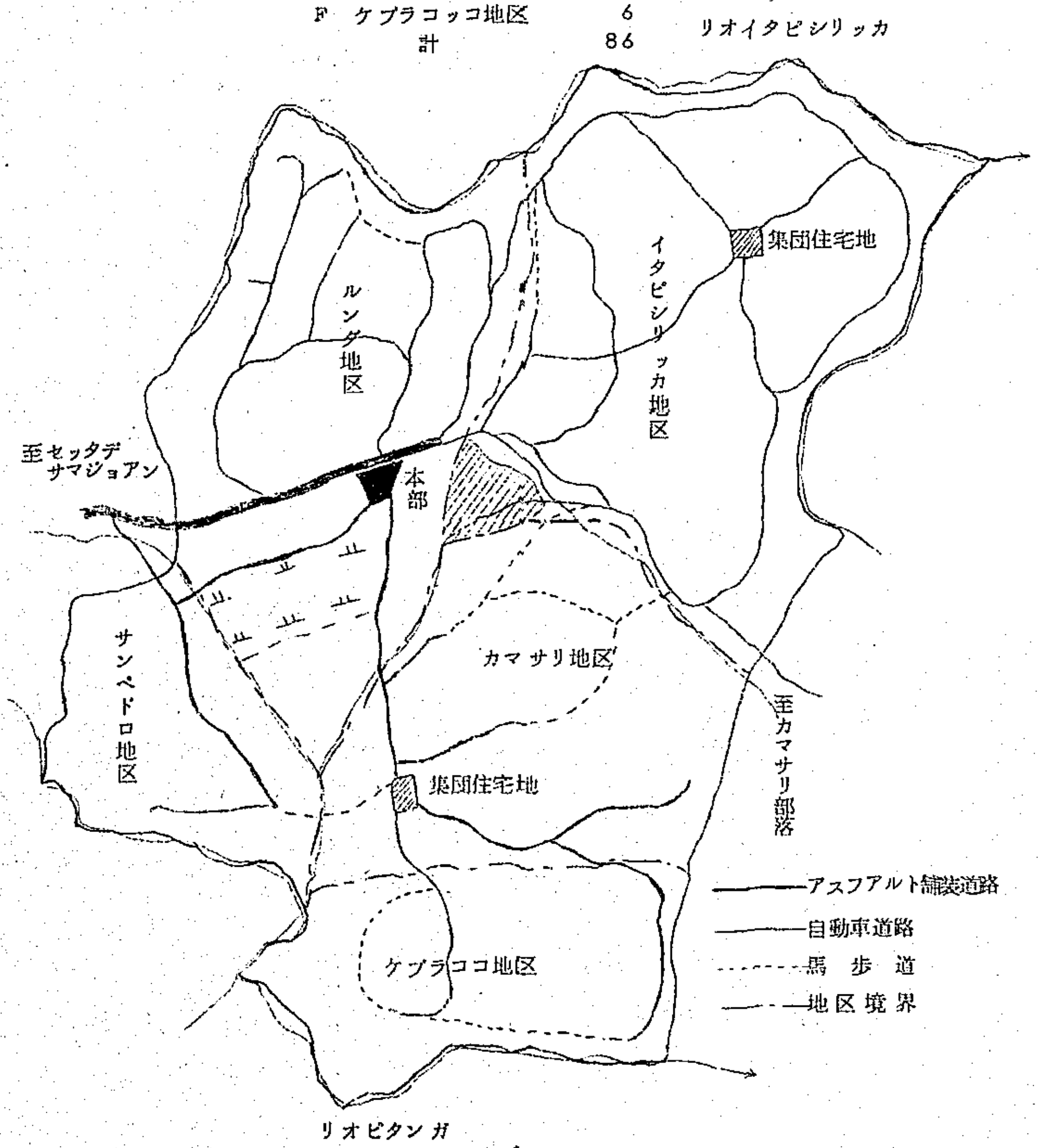
営　農　課　長

JICA LIBRARY
1054385[8]

ジユセリノクビチエッキ植民地について

J・K 植民地略図

付	A	本部地区略図	
	B	ルンダ地区	18戸
	C	イタピリシッカ地区	54
	D	サンペドロ地区	3
	E	カマサリ地区	5
	F	ケブラコッコ地区	6
		計	86



ブラジル国　ジュセリノ・クビチェック植民地

区分		現状	問題点	対策	対策の性格 普	調普	試	資	他
自然環境	地形土壌	本地区は，地区の北端を流れているイタピシリッカ川と南端を流れているピタンガ川とに狭まれて，概ね長方形をなしているが地形的には地区の南西のサンペドロ地帯と南東部のケブラコッコ・カマサリ地帯，北部のルンダ・イタピシリッカ地帯とに別れそれぞれ次の如き特質を有している。 サンペドロ地帯 ピタンガ川に沿った低地で土壌的にもマサッペ（植壌質土）で良質であるが雨期には排水が悪く耕作に支障を生じる所もあり乾期には土壌が固まって耕作に不便である。 カマサリ・ケブラコッコ地帯 地区内で最も起伏に富んだ所であり，土壌も地形によって砂質土の所もあれば砂壌質土の所もあり変化が多いが全般的には砂質土が多い。 ルンダ・イタピシリッカ地帯 地形は大きな波状をなした丘陵地からなっており，土壌は砂質土が最も多いが部分的に礫のある所もある。	Ⅰ 排水 Ⅱ 土壌が固く耕作に不便 土壌浸蝕 土壌浸蝕	排水路の整備 輪作による有機質の投入 土壌保全 土壌保全					
	用水	概ね大多数のロッテはイタピシリッカ川とピタンガ川（何れも水は年間切れることはない）に沿って造成されているので農業用水は，なんとか間に合っているが一部の河川より離れたロッテ或は河川の上流に当る地帯（例えばルンダ）にあっては河川水を利用することは不便である。	一部地帯の水不足，						
	気候	雨期，乾期がはっきりしており雨期は4月より始まり，6 7月が最も雨が多く9月に終る。これに対し乾期は10 月から始まり3月まで雨が少ない。営農的には，ここでは乾	水害 1. 野菜跡地は殆んど荒れ放題である。	雨期の作付制限と営農の体質改善 野菜跡地の活用と永年作					

区分		現況
自然環境	気候	期は水もあって忙がしいが，雨期には病害が多く作付も少ない。災害の多いのに雨期でこの間大雨で作付を流されることも度々ある。
	当地区における土地利用状況	（下表参照） 既開発面積中最も広いものは畑の1戸平均 2.87haであるが実際に利用しているのは，その内の1 ha にも満たないものであり，その他は殆んど野菜を作った跡地でありなんらの利用もせず荒れ放題となっている。
	土地利用方式	本地区の土地利用方式は野菜を中心に毎年1 ha 位づつ山林を切り開いて一方から休閑地をつくっており，土地利用の合理化については殆んど関心が払われていないのみならず，格一的な山切りが行なわれているため，土壌浸蝕が相当進んでいる。また土地は野菜の強度の作付，化学肥料中心の施肥から地力が減退し酸性化が強いため病害の発生も多く収益も減退しつつある。
	水利用	一般にトマト，ピーマン等の野菜栽培のため灌漑は畦間灌漑が行なわれているため傾斜地の多い当地区では土壌浸蝕をはげしくするのみならず水が経済的に使用されていない。

	既開発面積							未開発面積				合計
	畑	田	樹園	草地	宅地	その他	計	山林	原野	その他	計	
地区当り (ha)	261.20	00	165.00	81.50	42.00		549.70	1394	145.60	192.00	1731.60	2281.30
1戸当り (ha)	2.87	0	1.81	0.89	0.46		6.04	1531	1.60	2.10	19.01	25.05

問題点	対策	対策の性格				
		普	調普	試	資	他
2. 樹園地，放牧地が少ない	あるいは地力維持，香料作物の導入					
1. 土壌浸蝕が甚しい 2. 地力減退 3. 化学肥料偏重，土壌の酸性化	土壌保全（等高線栽培・被単水路）輪作による牧草或いは緑肥作物の導入有機質肥料の投入酸度の矯正					
1. 水の不経済的使用 2. 土壌浸蝕	保全灌漑，等高線栽培（スプリングクラーの採用）					

区分		現況	問題点	対策	対策の性格				
					普	調普	試	資	他
自然環境	道路	特にイタシピリカ，ケブラコッコ等奥地の地帯は道路が悪く生産物の出荷に影響を及ぼしている。	奥地地帯の道路の破損	道路補修					
	経営区分	一部の者を除いては殆んどが金肥偏重の乾期野菜単一の経営であり最近はコスト高の割合に収穫は病害等で減退，収益には安定性がない。	野菜単一経営からくる生活の不安定性	家畜の導入 永年作物の導入 自給体制(米)の確立					
	短期作物	i) 作付はトマト，ピーマンに主力がおかれているが，トマトは病害(萎縮病)が多い上に1回の作付面積が多い割に年間の作付回数が少なく，管理が充分に行かない上に金肥，労力の無駄使いが多い。またトマトは価格の変動が常にあるものであるが2～3回ではばくち的で当る回数も少なく収益が上っていない。 ii) また雨期には野菜の作付は制限されるがそれに代った適作物が導入されておらずトマト以外のこれに代る野菜，果樹についての研究も余り行なわれていない。例えば事業団の委託栽培結果によれば66 年2月現在の市況でトマト500本より，10 箱のトマトが生産できるとして2000 コントの粗収入，メロンを同じ面積のところに栽培して50株300kg の収穫が上り，現在小売で1000 クルゼイロスしているのでその卸値を半値として500cr$／kgとした場合150コントスとなるが，コストはトマトよりはるかに少ないので研究の要がある。 iii) 野菜の販売は各生産者自ら毎日サルバドールのフェイラに持って行って直接売っているグループと移住地まで来て生産者の庭先で買取ってゆく商人を対象に売っているグループとあるが，前者については毎日一家の働き手がサル	トマト偏重の野菜作 雨期の野菜は制限される トマト以外の他の野菜の栽培の研究が不充分 サルバドール市民は，まだメロンの味を知っていないため一挙に大量の販売は困難である。 販売施設がない。 販売に組織力がない。	1. トマト作付面積の適正化と作付回数の増大 2.金肥の節約と自給肥料の増産 3. 雨期における適作物(シュシュ)の導入栽培 4. トマトに代る野菜，果菜作物(メロン)の栽培 5. 市場開拓 6. 販売体制の確立(農協再編成と強化) 販売施設の整備					

区分		現況	問題点	対策	対策の性格				
					普	調普	試	資	他
自然環境	短期作物	バドール通りに出，ロッテで働けないという事，後者については商人の搾取が多いということでいずれも問題がある。							
	永年作物	i）永年作物については，これまで植民地の指導でバナナココ椰子，ミカン等を植えている者もあるが，バナナ，ココ椰子は収益性が低く，それがため管理が悪くミカンは蛾等のためいずれも余り植付けられておらず未だこれといってまとまった永年作物は見い出されていない。 ii）最近は近くのカンディアス植民地内にジース工場が年内に建設されるということでマラフジャカジュ，パイナップル等に力を入れようとしているが余り工場にのみ期待をもちすぎることは危険であるので，価格の変化にも弾力性あるよう生産コストを引き下げた栽培法について研究する必要がある。 iii）その他有望なものとしては，ピメンタ，ピアッサーバ（椰子科繊維よりホーキ網，特に海運船舶用の網の原料となるものでバイアの特産であり現在北米にまで輸出されている）があるが前者については手のかかる園芸作物として野菜の跡地に，後者は全く手のかからない粗放作物として乾燥地に導入可能性の高いものであるが，未だ本植民地には殆んど入っていない。	i バナナ，ココヤシは販売問題がある。 ii ミカンは蛾害が多い。 iii 生産性が低い。 i）ピメンタについては委託栽培の結果より適することが判明したが，未だ栽培法がよく知られていない。 ii）ピアッサーバについては活用がなされていない。	乾燥バナナ等加工したものとしての販売方法を研究 蛾の駆除 i）優良品種の導入 ii）マラクジャについては野菜跡地に。 iii）カジュについては乾燥地に。 i）ピメンタについては今後苗の増殖と栽培法の研究の要がある。 ii）ピアッサーバについての販売の開拓。					
	畜産	i）畜産のうち養鶏については，昨年の異常降雨による野菜の大減収の後事業団融資もあって大分普及し（現在養鶏農家26　戸）生産販売の段階に入ってきたが飼料が高いこと（成鶏飼料上物で16　コントス／50kg，中物で14～15　コントスでレシーフェより2コントス余りも高い）及	コチャ産組による大量出荷のためサルバドール市場が乱されており卵価の下落のため養鶏は赤字となってきた。	i）飼料の自給化 ii）野菜の自給肥料に見合った規模に適正化する。 iii）規格の統一					

区分		現況	問題点	対策	対策の性格				
					普	調査	試	資	他
自然環境	畜産	び特に最近はサンパウロのコチャ産組が毎週定期的に卵や鶏肉をサルバドール・マッタまで大量（週100ダースといわれている）に運んでくるので養鶏農家にとって大打撃を受けている。肉鶏についてもやっているが，最近は生産量が増加しているにもかかわらず需要がのびていないので75日で出荷しようとしても90日位になり余り良くない。 養豚については若干のグループがやっているが未だ施設が不充分なうえ，品種，飼料についての充分な知識が欠けている。それにしても豚肉については市場性が小さいのが問題である。 牛については少数のものが肉牛を入れているが一般的にはまだ牛の飼育は行なっていない。 今後は土地利用の合理化の上からも永年作物同様少しづつ導入させて行くべきである。	肉鶏の売れ行きがこれまでのようでなく一回に大量出荷が出来なくなった。 豚舎施設が不充分 品種が雑駁である。 市場が狭い。 品種が雑駁である。	肉鶏の冷凍販売，冷凍施設の整備 施設の整備 飼料の自給化 優良品種の導入 市場調査 優良品種の導入					
社会経済環境	販売購買方式	ジュセリノ，クビチェック植民地には日伯人入植者による法定組合が設立され，サルバドール市内には，ベンダ（販売施設）も設けられたが伯人が中心であったため運営がうまくゆかず，ベンダは閉鎖となり組合も名前だけでなんら活動もなしていない。このため，日本人入植者の生産物は前記した如く自分自身で市場へ持って行って売るフェイランテ方式と商人が買いにくるのを待っている仲買業者による方法とでやっており，生産資材も各個バラバラに商人から買ってくる等問題が多い。	販売，購買組織がない。	農協組織の強化 販売施設の整備					
	経済的条件	サルバドール市より70km 道路は完全舗装されており，極めて交通条件がよく販売面においても，地理的に常に恵ま							

区　分		現　況
社会経済環境	経済的条件	れた環境にあったが最近はBR11号線の整備に伴ない，サルバドール市場までサンパウロ・コチア産組の出荷が始まり，ジュセリ・クビチェック日本人入植者の生産する野菜，卵，鶏肉販売に重大な影響を与えつつある。
	社会的条件	1）地区別入植者年次入植者数は次表の通りである。

地区別	34	35	36	37	38	39	合　計	現在数	ブラジル人の入植者数
サンペドロ	9						9 (3)	3	43
ル ン ダ	3	11					14 (6)	18	31
イタピシリッカ		48	15	1	1		65(21)	54	1
カマサリ			7	3			10 (4)	5	38
ケブラコッコ			13	7			20 (9)	6	16
計	12		35	11	1		118(43)	86	129

（　）内は転耕作者，入植者合計数と現在数の相違は植民地内での移動及び分家独立による増減である。

2）本地区は日伯混合植民地である。従って，これまで伯国側の農協指導方針に従って農協も組織し，販売所もサルバドールに設けられたがその運営がうまくゆかず前者は閉店休業，後者は閉鎖してしまった。

3）入植者の営農は入植後4年〜5年間は比較的順調に伸びたが，その後は野菜単作経営による地力の減退より多くの入植者の営農収益は下り坂となり現地銀行の借入金もからみ，それにつれて転耕者も増え，特に昨年の水害により一時集団転耕の動きすら発生した。

問　題　点	対　策	対策の性格 普	調普	試	資	他
コチア産組出荷に伴なうサルバドール市場の攪乱	出荷態勢共同販売組織の強化営農の体質改善（コストダウンの為の合理化）					

第2表

改善対策の選定とその性格（JK植民地）

レシフエ支部　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　1966年12月末現在

部門	区分	改善上の問題点	改善上の対策	対策の性格 普	普(調)	試	貸	他	可能性 困難度	適用度	効果	摘要
土地利用		1. 野菜作は畑地が放棄されている。	野菜畑地の活用特に永年作牧草等の栽培	○					小	大	大	
		2. 既墾地の土壌浸蝕が甚だしい。	等高線栽培　緩斜水路の造成，急傾地のスプリンクラー潅漑	○					中	大	大	
		3. 化学肥料偏重による地力減退　酸性化が甚だしい。	輪作による牧草或いは緑地作物の栽培	○					小	大	大	
		4. 道路の破損が生産物の出荷を不便にしている。	道路改修（特に奥地）				○		中	中	大	
		5. 水源より遠いロッテの土地利用度が低い	ダムの造成				○		中	中	大	
農業経営と生産技術		（経営）										
		1. 野菜単一経営のための不安定	家畜の導入	○			○		中	大	大	
			永年作物の導入	○	○	○	○		中	大	大	
		2. 食糧の自給（特に米）が行なわれず生活が不安定である。	自給体成の確立，特に米作の励行	○					小	大	大	
		（短期作）										
		1. トマト偏重のため野菜経営が不安定となっている。	トマト作付面積の適正化と作付回数の増大。	○					小	大	大	
			トマトに代る作物の導入（メロン等）		○				小	中	大	
		2. 雨期の野菜が少ない	雨期に適する作物の導入（シコシコ，その他飼料作物等）	○	○				小	中	中	

部門	区分	改善上の問題	改善上の対策	対象の性格 普	普(調)	試	資	他	可能性 困難度	適用度	効果	摘要
農業経営と生産技術		3. 金肥偏重からくるコストの問題。	自給肥料の増産（家畜の増産）と金肥の節減。	○	○		○		小	大	大	
		（永年作物）										
		1. マラクジャ，カジュ，パイナップル等の生産性が低い。	優良品種の導入。	○	○				小	大	大	
		2. ピメンタの栽培技術が低い。	栽培技術の向上。	○	○				小	大	大	
		3. 乾燥地にも適するピアッサーバの有利性を知らない。	ピアッサーバの導入展示。	○	○				小	大	大	
		4. バナナの販売上の問題	加工品としての販売方法の研究。			○			小	中	中	
		（養鶏）										
		1. コチャ産組の大量出荷により養鶏農家は赤字となっている。	飼育羽数の適正化（自給肥料の上から）	○					小	大	大	
			飼料の自給体制強化（飼料作物の導入）		○				中	大	大	
		2. 肉鶏も一時に大量のものがはけない。	肉鶏の冷凍販売と冷凍施設の整備。	○			○		小	大	大	
		（養豚）										
		1. 畜舎施設が不備。	畜舎の整備。	○			○		中	中	中	
		2. 品種が雑駁。	優良品種の導入。	○			○		小	大	大	
		3. 飼料自給が不完全。	飼料作物の導入。	○					小	大	大	
		4. 市場が狭い。	市場調査。			○						
		（肉牛）										
		1. 品種が雑駁。	優良品種の導入。	○			○		小	大	大	
		2. 牧草面積が狭い。	牧草地の造成。	○					小	大	大	
	販売購買方式	バラバラに行なわれておりロスが多い。	農協組織の強化。	○					小	大	大	
			販売施設の整備。					○	中	大	大	

普及活動計画表（JK植民地）

レシフェ支部　　（41年度第4・四半期）　　1966年12月末日現在

部門	区分	普及指導事項	普及指導の方法	普及指導の対象	担当者	協力者	実施時間	摘要
土地利用	土壌保全	土壌保全。	講習会の開催。	入植者全員及び青年グループ	平間	農協	2月下旬	
	土地利用合理化	野菜作跡地の活用。	農家巡回の際戸別に指導－マラクジャの導入－或いは牧草の導入について。	代表的農家	平間		2月下旬	
営農経営と生産技術	経営	野菜単一作の偏重の改善	講習会の開催	入植者農家全員	平間	農協	2月下旬	
		自給体制の確立。	1. 仝上の講習会の際併せて指導。	仝上	平間	農協	2月下旬	
			2. ホーライ米種子の導入あっせん。	希望農家	平間	農協	3月	
	短期作	トマト偏重の改善。	1. 上記の講習会の際併せて導導。	入植者全員	平間	農協	2月	
			2. トマトに代るメロンの委託栽培指導。	委託農家	大橋	農協	2月	
		自給肥料の増産。	1. 家畜の導入増殖を通し自給肥料の増産を行う。	入植者全員	平間 坂口	農協	1月	
			2. 資金的な面では家畜導入についての融資を行う。					
	永年作物	果汁原料作物生産性の向上。	1. アバカシー，カジュの優良品種の導入（苗，種子のあっせん）。	栽培農家	平間，前川	農協	3月	
			2. 栽培法についてチラシを発行。	全員	大橋	農協	1月	
		ピメンタ栽培技術の向上。	1. 先進地より講師を招いて講習会を行う。	委託栽培農家及び希望者	平間	農協		
			2. 栽培法について資料を配布する。		大橋		2月	

部門	区分	普及指導事項	普及指導の方法	普及指導の対象	担当者	協力者	実施時間	摘要
営農経営と生産技術		その他の永年作物の指導	1. ピアッサーバについての市場適地調査。		平間，前川		3月	
	畜産	(養鶏) 養鶏経営合理化	先進地より講師を招いて講習会を開く。	養鶏農家全員	平間，前川	農協	3月	
		(養豚，肉牛) 飼育技術の向上	近くの畜産試験場視察を行う。	青年及び畜産農家	前川	農協		
	販売購買方式	共販	農協組織の再編成について講習会を開催する。	全入植者	平間	農協	1月及び2月	

第 4 表

営農普及活動実績報告

レシフェ支部　（昭和41年度　4・四半期）　昭和42年3月31日現在

部門	区分	普及指導事項	普及の方法	実施した時間	実施対象地区，グループ	成果	摘要
土地利用	土壌保全	土壌保全対策。	講習会の開催	2月下旬	入植者全員及び青年グループ	経営の関係で入植者全員に対しては行うことが出来ず，青年グループ20人に対して行った。	
	土地利用合理化	野菜跡地の活用。	巡回指導の際代表的農家に立寄って助言する。	1月上旬	代表的農家	時間の関係で約25戸程度きり話し合うことが出来なかった。	
農業経営と生産技術	経営	野菜単一経営の改善。	講習会の開催	2月下旬	入植農家全員	各団体経営者，婦人団体，イタピシリツカ地区入植者に対して行った。	
	短期作	自給体制の確立。	自家用水稲種の導入あっせん	3月下旬	希望農家	約30kgのホーライ米の種子のあっせんを行った。	
	短期作	トマト偏重の改善。	トマトに代る代替作物の指導	3月上旬	委託栽培農家	主としてメロンの栽培についての指導助言を行った。	
		自給肥料の増産。	家畜の導入（資金的な面での融資）	1月上旬	34戸	家畜導入整備についての資金の融資を行った。	
	永年作物	果汁原料作物の生産性向上。	アバカシー，カジュの優良品種の種苗の導入あっせん	3月下旬	関係農家	アバカシーについてはスムースカインを1万本余サン．パウロより導入あっせんを行った。	
			アバカシー栽培改善のためのチラシを配布する。	1月上旬	入植者全員	配布方法を日本人会に委せたため利用が充分でない面があった。	
		ピメンタ栽培技術の向上。	先進地より講師を招いて講習会を行う。ピメンタ栽培についての資料配布	2月下旬	ピメンタ栽培農家及び希望者	入植者25名に対し2日間（実地を含む）に亘って行った。で入植者も栽培に自信をもつに至った。	青年研修で講師をを招いた際，併せて実施した。

部門	区分	普及指導事項	普及の方法
農業経営と生産技術		その他の永年作物の導入。	ピアッサーバについての調査を行う。
	畜産	養鶏経営の合理化	生産性向上のため専門家を招いて講習会を行う。
		養豚，肉牛飼育技術の向上。	近くの畜産試験場を見学する。
	農協活動	農協再編成。	農協についての講習会を行う。

実施した時間	実施対象	成果	摘要
3月下旬		サルバードル市内Banco Lar Brasirerio の専門家の話を聞く。	
(未)			
3月下旬	畜産農家	主として養豚農家が近くの州立試験場の見学を行った。	
3月上旬	入植者全員	約30 名の入植者に対して農協理論についての講習会を行った。	

営農担当者の体制

1966年12月末日現在

レシフエ支部

当支部には専属の営農担当者はおらず主として大橋職員が他の援護業務を行ないながら支部管内入植地の営農相談に当っているが，実際上は，東北伯中伯の全地域に亘って広範囲に分散している植民地入植者に対する営農指導は人容的な問題のみならず，僅少な普及費では予算的にみても，各植民地年1回の巡回指導すら，不可能であるため，支部長以下支部職員全員が，他の援護業務で出張する際併せて営農相談指導に当っているのが現状である。

従って，当支部の営農指導は他の事業団直轄移住地の如く営農相談員が常駐し植者と接しながら，徹低した指導の行なえるところとは大部条件が異っており，様式4の記入もまた当てはまらない段階で省略を余儀なくされるが，少なくともＪＫ植民地位には，今後営農相談員を常駐させピンチに追い込まれている入植者の営農の再建を図りたいものと考えている。

普及活動上の反省と所感

昭和42年3月末日現在

レシーフェ支部

1. ＪＫ植民地に関する限りは，これまで州政府のサルバドールへの野菜のの供給という大きな指導方針が，かえって入植者をしてeagy going ならしめ，今日の苦境に落ち入ったともいえる。入植当初は別として，やはり将来の永年作を目標とした一段階としての野菜の経営であるべきだったが州側の方針もあり，ここの入植者は野菜作りがここの入植の目的かの如く考えている者もおった程で，こうした入植地の営農指導は単に相手国当局の方針にのみまかせてよいというものでないと云うよい実例である。

   他の植民地の場合の入植者に対する植民地側の営農指導も大なり小なりこれと同じである。

2. 現在当支部の営農指導は何もこれまでの植民地側のこうした無策，或いは長期の見透しのない指導方針による入植者の営農の構造改善が主な仕事となっている。従ってそれだけにての改善普及にはこれまで以上の努力を必要とするが，そのためには支部の営農指導体制は確立する必要がある。具体的には支部に営農専門員１名（現在支部長兼務）の他にＪＫ植民地には営農相談員１名の常駐を必要となる。

3. 東北伯，中伯の今後の方向については，南伯及び北伯地帯の農業技術をとり入れる必要があり，南伯の市場を把握しておく必要がある。そのためにはサンパウロ支部とベレン支部との協力関係を今後より一層強めることが肝要である。

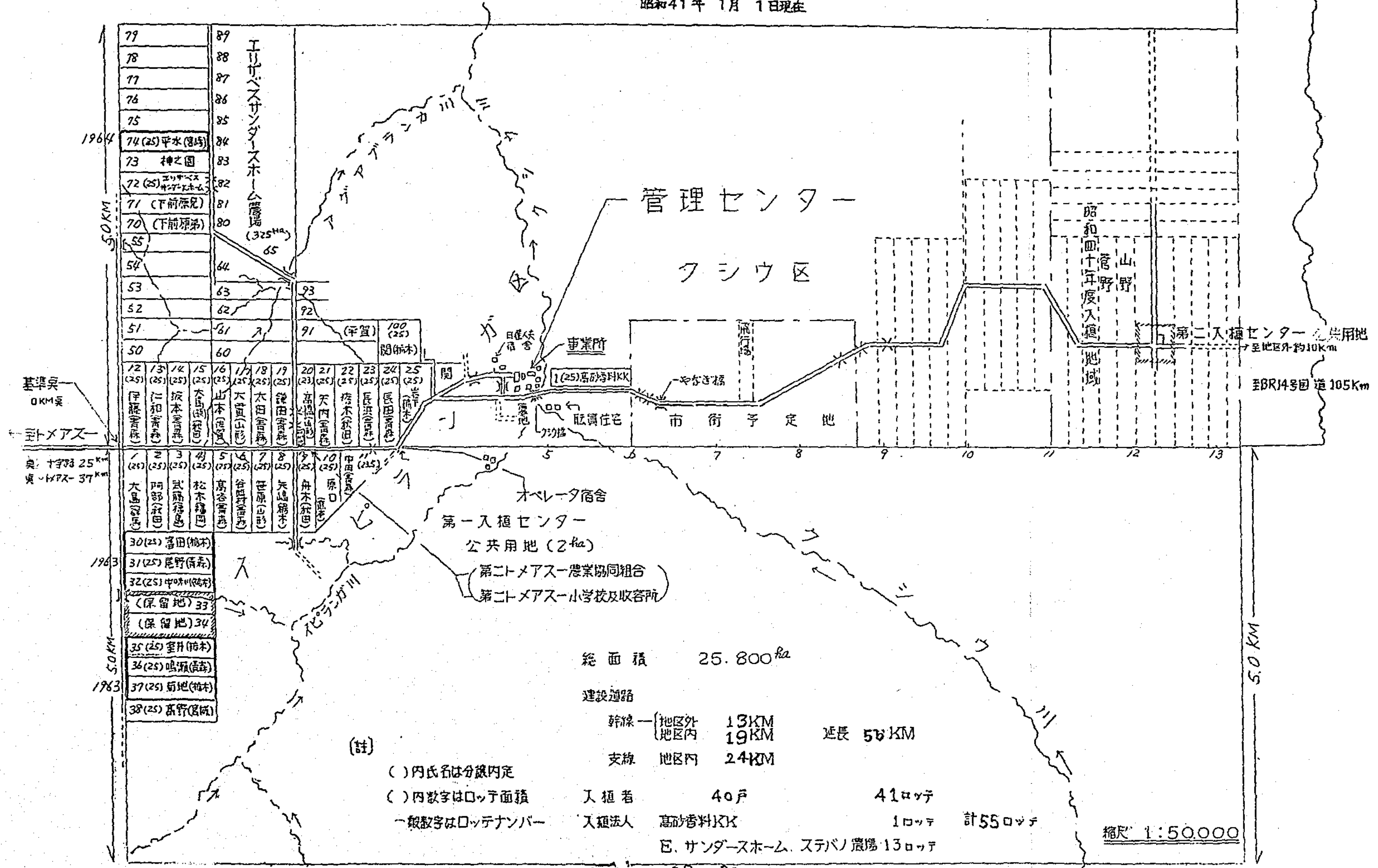
4. 当支部の普及活動は漸くその緒につき始めたばかりでまだその体制が確立されていなく，また担当地域の広がりに即応した予算措置もなく，当分は41 年度第４，四半期の実績にみる活動が限度である。

5. 今後普及活動を前向に進めようとするなら，少なくとも体制の確立，予算措置をもっと考える必要がある。この場合予算措置とは単に旅費のことを云っているのではなく，普及活動するための道具（活動するための車輌又はバイク，視覚教育のための幻灯器，土壌調査器具，簡易測量具等）及び普及方法として最も大切な試作圃，展示圃の設置費等を指すものである。

第2トメアス移住地について

第二トメアスー入植地略図

昭和41年 1月 1日現在



（ブラジル・第2トメアス移住地）

第1表

部門			現状		問題点	対策	対策の性格				
							普	調普	試	資	他
自然環境	位置	位置	パラ州首都ベレン市より南方道線距離125km　の地点（南緯2°31′　西緯48°22′）		報告書様式にそっての報告でなかったため本欄は記載せず。（編者注）						
		総面積	25.800ha　巾10km　延長25.8km								
	土地	地形	標高11〜30m概ね平坦であるが部分的には20〜30mの高低差がありその間をイガラッパ（小川）が流れている。河川としてはアカラミリン河及びその支流であるクシウ川，イビランカ川が地区内を横断している。								
		地質・土壌	地質は第3紀層砂岩或は粘板岩に属し，ラテライト系の肥沃度中程度の土壌で表土は比較的有機質に富む暗灰色砂壌土，植壌土								
	周辺植生	植生・林相	密生した熱帯原始林に覆われ直径1.5m以上樹高40〜50mの巨木が存在し有用材としてはピメンタ支柱用材のアカプー・マサランドウーバー・ジャラナー・家具・一般建築用材のフレージョ・ローロ，パウアマレイロ，クヒウーバ，マルパー，クワルーバ等がある。その他銘木としてはパウサント（黒檀類似木），ムイラピュマ（蛇紋木）がある。								
	動	動物	アマゾン河上流地域に比べると比較的少ないと云われるがオンサ（豹）・マラカシヤ（山猫）・ウィアード（鹿）・カチトー（猪豚）・アンタ（貘）・タマンド								

第1表

部門			現状	問題点	対策	対策の性格				
						普	調普	試	資	他
自然環境	気象	気温及び雨量								

ア・バンディラ（大蜥蜴）・タツー，パーカ・コチア，クアチ・クワンドウー，シャカレー（ワニの一種）その他多くの猿類，毒蛇類，鳥類がいる。

気象については事業所室内観測による過去3年間の資料を記載する。

3ヶ年平均（1963〜1965）

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
気温	最高極C°	35.0	335	33.0	33.0	33.0	33.0	350	335	33.5	34.0	345	355	355
気温	最低極C°	21.8	235	205	205	255	230	21.5	220	235	230	23.0	220	20.5
気温	平均C°	28.0	27.9	27.7	28.1	284	28.2	27.7	28.4	28.3	286	29.3	29.0	28.3
降雨量mm		410.6	401.8	487.1	479.1	277.3	1154	453	40.2	59.8	159	87.6	280.7	2,700.8
降雨日数		18.0	21.7	260	260	20.7	140	8.0	60	8.3	4.0	4.0	13.3	1700
湿度%		790	81.7	860	827	800	78.3	767	79.3	77.0	743	71.3	77.7	787

（注）　気温の最高，最低極は平均でなく，3ヶ年間にあった気温の最高，最低極を示す。

1963年

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
気温	最高極C°	35.0	33.0	32.4	33.0	33.0	33.0	35.0	334	33.0	34.0	345	340	35.0
気温	最低極C°	21.8	23.8	24.0	24.0	235	23.0	21.5	220	235	235	235	245	21.5
気温	平均C°	27.9	28.0	27.3	28.4	289	283	27.1	28.5	28.1	28.5	29.3	287	282
降雨量mm		356.1	357.8	641.3	391.7	1633	88.3	326	55.1	346	26.1	1936	490.2	2830.7
降雨日数		18	23	29	29	15	16	6	7	5	5	8	17	178
湿度%		71	77	84	78	78	76	75	82	80	80	75	82	762

（注）　気温の最高，最低の極の年間欄にはその年の最高，最低の極を示す。以下同じ。

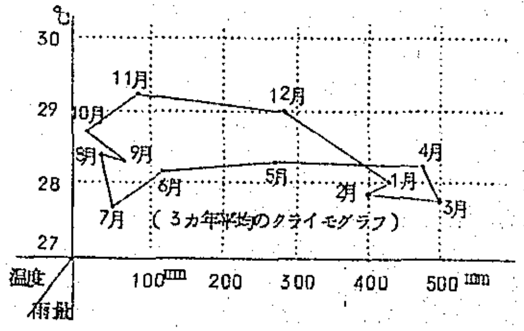
1964年

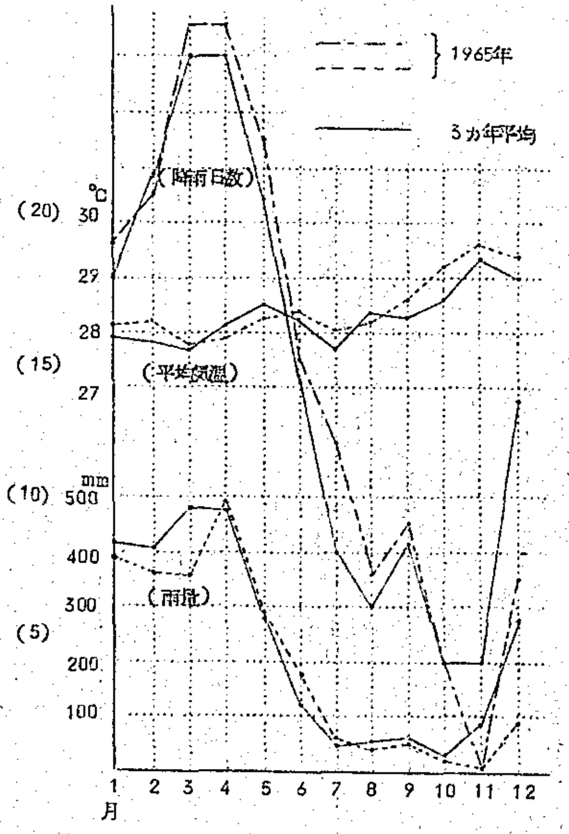
区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
気温	最高極C°	33.0	33.0	325	325	325	325	33.0	33.0	33.0	335	345	345	345
気温	最低極C°	220	240	20.5	20.5	245	235	23.0	235	235	235	230	230	20.5
気温	平均C°	28.1	27.6	28	27.9	282	28.1	28.1	284	282	283	28.9	28.9	282
降雨量mm		490.1	488	459.1	5656	382.2	1007	498	30.3	101.3	43	69.1	257.8	2,998.3
降雨日数		17	21	22	22	24	11	6	4	11	3	4	16	161
湿度%		852	87	88	86	82	80	78	80	78	74	71	78	806

1965年

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
気温	最高極C°	33.5	33.5	33.0	325	31.5	325	325	335	33.5	34.0	34.5	355	35.5
気温	最低極C°	235	235	235	235	24.0	235	225	23.0	24.0	23.0	24.0	220	22.0
気温	平均C°	28.0	28.1	27.8	27.9	282	283	28.0	282	286	29.1	29.6	29.3	28.4
降雨量mm		385.8	359.8	361.1	481.9	286.4	157.3	53.5	353	43.4	17.3	—	94.1	2,275.9
降雨日数		19	21	27	27	23	15	12	7	9	4	—	7	171
湿度%		81	81	86	83	80	79	77	76	73	69	68	73	77.2

部門			現状	問題点	対策	対策の性格				
						普	調普	試	資	他
自然環境	気象	気温及び雨量	気象図							





部門		現状	
社会・経済環境	トメアスー郡	1959 年アカラ郡より独立，面積 5,558 km^2（東京都と埼玉県を合せたよりやや小さい。）	
	人口	約 1 万人（1962 年 6 月調べ）内日系 2,400 人，約 460戸（1965 年 6 月 31 日調べ）ピメンタ収穫期には伯人季節労務者 1,000 人増す。	
	トメアスー植民地	面積 26,000has 1927年～ 1930 年には日本人 352家族（2164 名）入植，その后マラリア等で 98 戸（483 名）に減少したが，1965 年 6 月現在日系人家族数 422戸 2214 人に増加して約 260万本のピメンタを栽植，年間約 6,000 トンのピメンタを産出している。 主要機関としてはトメアス産業組合ブラジル鐘紡化工商事株式会社のピメンタオイル抽出工場〔トメアスー産組（原料の供給）高砂香料（加工）鐘紡（販売）の三者合同出資により 1964 年 11 月操業を開始〕がある。 その他郡立病院トメアスー産組経営診療所，中学校 1，小学校 4 があり又土地住民の一致協力により 35 ミリ映写機を完備したトメアスー文化会館を建築し 66 年 1 月 4 日開館した。 組織的には産組の外地区連合会マラリア防遏委員会，野菜連盟があり，それぞれ活発な活動を行なっている。	
		・事業所より北へ地区入口まで 5.2 km カニンデー入口まで 18 km	

問題点	対策	対策の性格				
		普	調普	試	資	他

部門			現状	問題点	対策	対策の性格 普	調普	試	資	他
社会・経済環境	交通	道路・交通	トメアスー植民地十字路まで30.2km(空港よりテコテコでベレン迄約30 分110km)定期便が毎日就航している。 トメアスー港まで約43km(機橋より河船でベレン迄約13～18時間，270km定期便が週一回その他民船が常時就航している。) ・事業所より南へ第2センターまで約7km 地区南端まで約20km BR14 国道まで約125km(現在州政府によってトメアスー植民地から当入植地を通って国道BR14(ベレンーブラジリア間)に連絡する道路建設が計画進行中で既に一部は着手されている。これが完成のあかつきにはベレン及び南伯経済圏とも直結し入植地への物心両面に与える影響は大きい。)							
	その他	営農の型態	当入植地の営農形態は永年作物であるピメンタ(胡椒植付後4年目から本格的収穫に入り約10 年間続く)を主体としておりピメンタ収穫までの換金作物ならびに自家用として陸稲・野菜・豆・マージョンカ・トウモロコシを作り豚・鶏を飼っている。自分のロッテ内の有用材(ピメンタ支柱・建用材)をトメアスー植民地にも売却している。当地への入植はピメンタを植付けて4年後収穫があるまでの3年間位の生活資金が必要である。							

部門			現状	問題点	対策	対策の性格				
						普	調普	試	資	他

社会・経済環境 — その他 — 作付状況

1. 作付状況

項目		37年	38年	39年	40年	合計
所有耕地	ロッテ数	25 ロッテ	21 ロッテ	3 ロッテ	6 ロッテ	5.5ロッテ
	面積	608.3 ha	525 ha	7.5 ha	150 ha	1,358.3 ha
伐開面積		75 ha	115 ha	85 ha	135 ha	410.0 ha
陸稲	作付	38.7 ha	90 ha	69.4 ha	90.0 ha	288.1 ha
	収量	ton	57 ton	98 ton	118 ton	273 ton
ピメンタ	作付	30.7 ha	53.8 ha	43.5 ha	30.0 ha	158 ha
	本数	4年木22,000 本	3年木55,000 本	2年木 46,000 本	初年木29,000 本	152,000 本
	収量	— ton	— ton	4.5 t	35.0 ton	39.5 ton

ロ ピメンタの現在の植付本数を基とした収穫予想量は，次表の通りである。

年度	植付本数	予想生産量	予想収入
37	22,000	0	1kg当り1,000Cr$
38	55,000	0	
39	46,000	4.5 ton	
40	29,000	35 ton	35,000コントス
41	未定	150 ton	150,000コントス
42	未定	350 ton	350,000コントス

ピメンタの市況

1966 年1月現在のトメアスー産組取引き先の市況は次の通りである。（単位 US$）

(t当)	ニューヨーク	アルゼンチン	ヨーロッパ	チリ
白	1215	1,300〜1,350	1,215	
黒	850	870	850	1,100

当入植地の組合は第2トメアスー農業協同組合（任意組合）と称し入植初期の共同組合として発足しており収穫期に達したものは出荷組合員としてトメアスー産業組合に加入することとなる。1965 年7月初の本格的なピメンタ収穫を迎えて第1回現地入植(1862年)者

部門			現状	問題点	対策	対策の性格				
						普	調普	試	資	他
社会・経済環境	その他	組合活動	のうち24 家族ならびにエリザベス，サンダース・ホームがトメアスー産組に正式加入した。第２トメアスー農協は理事７名（任期２年）監事３名（任期１年）の執行部のもとに運営され次の活動を行なっている。 ⅰ購買部 ⅱ販売部 ） 65 年7月25 名がトメアスー産組に加入したことから両部門を産組に移管し現在産組より週一回定期的に出張販売・購買を実施している。 ⅲ利用部　トラック・トラクター・精米機・製材機の利用 ⅳ貸与物件管理運営委員会　事業団貸与物件の有効適切な管理運営を計っている。 Ｖ農事研究会　入植者相互の農業知識技術の向上，新入植者に対する農事相談を目的として65 年12 月に設立外部から講師を招へい，相互の研究発表を行なうなど活発な活動を開始している。							

営農普及活動計画表

第 2 表

普及指導事項	到達目標	対象地区名 グループ名	対象件数 実施回数	推進方法：普及方法	実施場所	担当者	協力機関 協力者名	準備	摘要
1. 農業簿記の普及	1. 農業簿記々帳に熱心な農家ならびに営農類型別入植地別に代表農家を３０戸程度選び記帳させる。 2. その他営者に無料で配布する。	1. トメアスー（第2トメアス含む） 2. グラマ 3. アカラ 4. ベレン近郊	4回	1. 講習会 2. 農家経済調査，営農指導に際し説明する。	IPEAN（北伯農事試験場）	永田秀治	支部職員 奥田隆男 東　久一	投入産出を明確に把握できるような農業簿記を作成し普及に努める。	
2. 土壌調査ならびに営農全般にわたる指導	前年度に引続き実施しキナリー，トレーゼ，デ・セテンブロ入植地につき実施する。	1. キナリー 2. トレーゼ・デ・セテンブロ	2件	巡回	キナリー トレーゼデセテンブロ入植地	永田秀治	寺田慎一 千葉守男（技協派遣技官）		寺田慎一（作物）千葉守男（土壌）両技官の協力を得て土壌調査及び営農相談を実施する。
3. 資料の刊行	熱帯作物全般についての概要をまとめた資料を作成する。		1件			永田秀治	奥田隆男 東　久一	毎年実施する訓練講習の際IPEAN講師等の講議をまとめる。	
4. 第2トメアスー入植者の手引の作成配布	日本から移住してくる人達のために或は現在入植している人達の営農全般の手引とする。	第2トメアスー	1件	希望者に配布		吉田貞吉	上村昌司 上森六園 小谷裕次 永田秀治		

第 3 表

営農担当員の体制

ベレン支部にあっては人員不足で営農担当員の体制は確立していない。本来ならば支部に専門技術員（伯国機関との連絡ならびに営農担当員の指導を行なう）を置き支所，事業所，駐在員事務所に営農担当員を配置することが望ましい。

配置場所	担当者氏名	普及活動経験年数	他業務との兼任
ベレン支部	永田　秀治	6(4)	医療衛生，巡回診療，適地調査（BR−14），訓練講習 北伯雇用農，経済調査
	東　久一	8	受入，査証，北伯雇用農，経済調査，渉外
	越智　栄（嘱託）	19(9)	渉外
マナウス支所	青木　陽次	2	業務関係全般，融資相談，その他
	高村　正寿（嘱託）	11	渉外
第2トメ・アスー事務所	吉田　貞吉	10(2)	第2トメアスー造成工事関係統轄事務，北伯雇用農，経済調査， 農協，融資相談
	上村　昌司	12(5)	第2トメアスー造成工事，農場
	上森　六園	14(1)	第2トメアスー造成工事，渉外，北伯雇用農
サンルイス駐在員事務所	谷　正一	14	業務関係全般，融資相談，その他

(7) 第2トメアスー入植者名簿

附表

通し番号	農家番号	氏名	家族数(うち外部在住者)	出身県	入植年月	備考
1	I—1— 1	大島宏生	4人	群馬	1962.11.(現)	
2	I—2— 2	阿部隆次郎	5人(1人)	秋田田	〃	
3	I—3— 3	武藤 徳	6 (2)	福島	〃	
4	I—4— 5	高谷留吉	7 (2)	青森	〃	
5	I—5— 6	谷地村清志	7 (1)	青森	〃	
6	I—6— 7	笹原富雄	3	山形	〃	
7	I—7— 8	矢島 繁	4	栃木	〃	
8	I—8— 9	舟木良治	6	秋田	〃	
9	I—9— 10	原口十一	3 (1)	熊本	〃	
10	I—10— 11	中田英昭	6	青森	〃	
11	I—11— 12	伊藤 広	8	青森	〃	
12	I—12— 13	仁和権次郎	5	青森	〃	
13	I—13— 14	坂本藤吉	6 (2)	青森	〃	
14	I—14— 15	大島孫太郎	5	秋田	〃	
15	I—15— 16	山本宏己	1	佐賀	〃	
16	I—16— 17	大貫光三	5 (1)	山形	〃	
17	I—17— 18	太田幸一	9	青森	〃	
18	I—18— 19	鎌田喜久三	8 (1)	青森	〃	
19	I—19— 20	高橋新作	6 (3)	山形	〃	
20	I—20— 21	矢内鉄征	10	青森	〃	
21	I—21— 22	佐々木寅五郎	7	秋田	〃	
22	I—22— 23	長浜栄三	8 (1)	青森	〃	
23	I—23— 24	永田恭平	6	青森	〃	
24	I—24— 25	岩下譲次	5 (5)	栃木	〃	
25	I—25— {26 / 100}	関 弘	2	栃木	〃	
26	I—26— 30	富田昭一	4	栃木	1963.10.(内)	
27	I—27— 31	尾野誠誉	4	青森	〃	
28	I—28— 32	中見川博司	5	栃木	〃	
29	I—29— 35	室井 洋	6	栃木	〃	
30	I—30— 36	鳴瀬久左エ門	8	青森	〃	
31	I—31— 37	菊地 稔	6 (2)	栃木	〃	
32	I—32—{64.65.72 / 80～89}		14	神奈川	1964. 5.(内)	法人65年5名入植
33	I—33— 38	高野昌治	6	宮城	1964. 5.(現)	
34	C—34— 1	高砂香料 K.K.	5	東京	1964. 6.(内)	法人
35	I—35— 74	平水重行	6 (1)	宮崎	1964. 8.(内)	
36	I—36— 4	松木 清	11	福岡	1965. 6.(内)	
37	I—37— 70	下前原 晃	4 (4)	宮崎	1965. 6.(現)	
38	I—38— 71	下前原輝男	4 (4)	宮崎	1965. 6.(現)	
39	I—39— 73	神之園主税	1	宮崎	〃	
40	I—40— 91	平賀練吉	3 (3)	東京	〃	
41	C—41— 202	山野至弘	1 (1)	栃木	1965. 8.(現)	
42	C—42— 201	菅野常雄	1 (1)	栃木	1965. 4.(現)	
計	55 ロッテ	42戸	231 (36)			

(注) 1. 農家番号の第1文字は地区名を表し，I は Ipiranga 区 C は Cuxiie 区を示す。
第2文字は入植順位，第3文字はロッテ番号を示す。

2. 入植年月はロッテ確定の日をもって入植とした。(内) は内地からの入植，(現) は現地からの入植を示す。

トメアスー植民地　統計　（1965年6月31日現在調）

この統計は海外移住事業団ベレン支部が主催しトメアスー地区連合会の協力のもと，トメアスー在住日系全農家を対象に1965年6月31日現在をもって実施した農家経済調査をとりまとめ集録したものである。

1. 地区別，戸数，人数

	地区名	戸数	人数
1	トメアスー	23戸	104
2	ボアビスタ	40	241
3	イピチンガ	37	201
4	マリキータ	32	157
5	アライア（東，南，北）	47	231
6	アグアブランカ	46	258
7	ブレウ　1区	33	200
8	〃　2区	39	198
9	〃　3区	39	192
10	〃　4区	50	275
11	〃　5区	36	157
計		422	2214
12	第2トメアスー	42	195
合計		464	2409

（注）第2トメアスーについては1966年1月1日現在調べを集録した。（戸当り平均家族数5.2人）

2. 年令，男女．国籍別人数

国籍別 ＼ 男女別 ＼ 年令別	1 ～ 5才		6 ～ 10		11 ～ 15		16 ～ 20		21 ～ 25		26 ～ 30		30才以上		計		国籍別人数比
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
日本	6	5	10	21	56	47	90	69	68	58	66	55	191	234	976		44.1
帰化	0	0	0	0	0	0	0	1	5	2	4	10	157	51	266		12.0
伯国	166	156	119	130	82	56	49	49	34	33	24	33	17	24	972		43.9
計	172	161	129	151	138	103	139	119	107	93	130	98	365	309	(男) 1.180	(女) 1.034	
合計	333		280		241		258		200		228		674		2214		100%
年令別人数比	15.0		12.6		10.9		11.7		9.0		10.3		30.4		100.0%		

3. 戦前、戦后別入植戸数

	戸数	比
戦前入植	90戸	21.5%
戦后入植	320	75.6
二世	12	2.9
計	422	100%

4. トメアスー転入戸数

（１９５４年以降における国内移住）

地方名	戦前移住者（戸）	戦後移住者（戸）	合計（戸）
ベレーン及近郊	１７	６	２３
サンパウロ（南伯）	７	２	９
モンテアレグレ	３	１	４
マウエス・パリンチンス地区	６	１	７
マナウス（マナカプルー）	０	２９	２９
アマパ州	０	１０	１０
グアマ入植地	０	５	５
ベルテーラ	０	３	３
計	３３	５７	９０

（参考）

日本直来年度別トメアスー入植者数

（本表は支部の入植者受入台帳より転載した）

年度	戸数	人数			
		家族人員	単独青年	計	
１９５３年	２９戸	１８１		１８１	
１９５４	７７	４５５	１	４５６	
１９５５	７１	４３４	２４	４５８	
１９５６	６	３６	６	４２	
１９５７	６	３０	１５	４５	
１９５８	６	２６	１０	３６	
１９５９	６	２４	１１	３５	
１９６０	３０	１４７	３９	１８６	
１９６１	３２	１４１	３５	１７６	
１９６２	８	３４	８	４２	
１９６３	７	３４	—	３４	うち第２メアスー入植地６家族３０人
１９６４	２	８	６	１４	うち第２メトアスー入植地１法人（サンダースホーム）６名
１９６５	１	１１	１０	２１	うち第２メトアスー入植地１家族１１名，サンダースホーム５人，呼寄２人
計	２８１戸	１５６１	１６２	１７２６	

戦后トメアスー入植者定着率

$$\frac{\text{戦后入植者　３２０}}{\text{日本直来入植者数２８１＋転入戸数５７}} \fallingdotseq 95\%$$

5. 所有土地規模別農家数　（３６５戸対象）

規模	農家数	比
１９ha 未満	４５戸	１２.３
２０ ～ ４９	２３３	６３.８
５０ ～ ９９	６３	１７.３
１００ha以上	２４	６.６
計	３６５戸	１００％

（注）所有土地総面積　１７,５９８.８ ha
　　　１戸当　平均　　４８.２ ha

6. ピメンタ樹令別栽植本数　（３８３戸対象）

樹令	本数	比
１ 年 生	３６７,０００本	１４.０％
２ 年 生	１６０,０００	６.２
３ 年 生	２５５,０００	９.８
４ 年 生 以上	１,８３０,０００	７０.０
計	２,６１２,０００本	１００％

7. ピメンタ栽植規模別農家数　（380戸対象）

栽植規模	農家数	比
3,000本以下	77戸	20.3%
3,000～5,000	86	22.6
5,000～10,000	136	35.8
10,000～15,000	51	13.4
15,000～20,000	17	4.5
20,000本以上	13	3.4
計	380戸	100%

1戸当り平均栽植本数　6,800本

8. 経営形態別農家数　（409戸対象）

経営形態	農家数（うち単独青年）	比
雇傭農家	32戸（16）	7.8%
半独立農家	106（11）	25.9
独立農家	271（－）	66.3
計	409戸（27）	100%

（注）半独立農はピメンタ成木3,000本以下ピメンタ収獲量3t以下の農家とした。

9. 車輛及び農機具所有台数

機種	台数	1台当り戸数　台数／戸数
車輛	167 台	2.5 戸
トラクター	283 〃	1.5
発電機	415 〃	1.0
脱粒機	80 〃	5.3
発動機	163 〃	2.6
乾燥機	54 基	7.8
精米機	36 〃	11.7
オートバイ	12 台	35.2

（注） 1. 車輛はトラック，ジープ，乗用車を一括計上した。
2. 発動機は発電機，脱粒機等にセットされているものは除いて計上した。

10. 1953年以降（戦后）入植者概況

入植戸数	320 戸
所有土地面積	9,014.5 has
1戸平均所有土地面積	28.2 has
ピメンタ栽植本数	1,568,000 本
1戸平均 ピメンタ栽植本数	4,900 本

トメアスー地区邦人移住者の地域開発に対する貢献

トメアスー郡におけるピメンタ生産量及び価格

１９６５年度約5,６００屯と相定される。うち９０％は邦人移住者によるもので、また販売価格を平均Kg当りCrS １,０００とすれば、生産量及び価格は次のとおりとなる。

生産量　約5,０４０屯

生産価格　約CrS 5,０４０,０００,０００

トメアスー郡予算における邦人移住者の負担について，

(1) １９６４年度収支

収入　CrS ２６０,９２４,１６５

支出　CrS ２６０,９２４,１６５

(2) １９６４年収入（郡）のうち生産税収入はCrS １７６,５４７,００１.60となっているが，そのうち邦人移住者による納税額はCrS１６０,６９２,３０１.44で９０％を占め大きな貢献をしている。

公金還元状況

１９６４年度トメアスー郡が，トメアスー地区になした公金還元状況は次のとおりであって，邦人移住者が納税した生産税額の約$\frac{1}{2}$である。

1.	Administracao Geral	CrS	10,626,640.20
2.	Exacao e Fiscalizacao financeira	CrS	2,118,790.
3.	Seaurança Publica e Assistencia Social	CrS	2,280,015
4.	Educacao Publica	CrS	8,343,568.
5.	Saude Publica	CrS	8,666,409.
6.	Fomento Economica em geral	CrS	2,234,334.
7.	Servicos Industriais	CrS	10,344,279.70
8.	Servicos Utilidades Publica	CrS	35,489,252.60
	計	CrS	80,111,288.50

○ トメアスー産組購買状況（１９６４年度）

組合員数　２４４名（１９６５．１２．*２７７名）による購買状況は次のとおり。

購買部	売上	Cr$	738,810,104.70
農機部	〃		182,488,351.
鉄工部	〃		24,000,000.
肥料部	〃		265,674,243.
病院関係	〃		12,500,000.
	計		1,223,472,698.70

以上１組合員当り5,000コントスの利用があり，消費産業へ間接的に貢献している。

○ トメアスー病院（産組経営）の伯人利用について

１９６５年１１月の来患数は延３１７名であるが，うち１７７名は伯人であって，常時伯人の利用者の方が多い。

○ 子弟教育について

小学校在学児童数は伯人３４２名，日系人４５９名，中学校（州立）在学数は伯人３６名，日系人１０４名であるが，優秀な教師を招くために，特別支出する，教師謝金等は邦人移住者が負担し，子弟の教育につとめている。

ラーモス移住地並びにポルトアレグレ支部

管内邦人移住者在住地区

営農普及活動計画表

第 1 表

ポルト・アレグレ支部　　管内移住者在住地区　　　　昭和41年12月現在

	普及指導事項	到達目標	推進方法：対象地区又は研究グループ名	対象件数又は実施回数	普及の方法	実施場所	担当者	協力機関又は協力者	準備	摘要
10	機関紙（新聞）発行による技術普及	気象実績，市況，本期の営農技術，諸農村法規の解説	全農家	500戸	印刷郵送	支部事務所	笹田・香川		資料蒐集	
11	近郊蔬菜技術指導	夏の主要蔬菜病害診断とその対策指導	サンタ・マリア地区 ヴイアモン地区 サン・レオ・ポルド地区	20戸 30戸 20戸	2～3の農場を巡回して実際指導を行う 〃 〃	現地農家 〃 〃	香川 笹田 〃	サンタ・マリア地区営農研究会 地区日本人会 〃	ジープ 〃 〃	
12	新聞発行による技術普及	気象実績，市況，本期の技術，関係法規の解説，各種統計表	全農家	500戸	印刷郵送	支部事務所	笹田・香川		資料蒐集	
	雑作営農技術指導	農場の現況調査と問題点対策指導	ソール・ナッセンテ農場	10戸	現地指導	現地農場	香川		ジープ	
1	近郊トマトの生産費調査と広報	モデル農家の実態調査を行い資料を集める	ヴイアモン地区	3～5戸	資料を整理の上，印刷配布	現地・事務所	笹田・香川			
	農家経済調査結果で経営の問題点を摘出し，機関紙で改善普及をはかる		ヴイアモン地区	28戸			〃　〃			
	イタリアブドウの開園設計指導	1.各ロッテ調査 2.品種，植付本数，苗木入手等必要事項の検討，3.資金手当の検討	イポチ農協	26戸	各ロッテ毎に実地指導を行う	イポチ移住区	香川	平松蔵技師	技師招聘手当と資金手当	
2	機関紙発行による技術普及	気象統計，農産物市況，本期の営農技術，関係法律解説，諸統計資料	全農家	500戸	印刷郵送	事務所	笹田・香川		資料蒐集	
	近郊蔬菜技術指導	秋蔬菜経営の重点事項を検討指導	グラバタイ地区	40戸	標本農家で共同研究	現地農家	笹田	地区日本人会	ジープ	
3	イタリア・ブドウの開園技術について	イポチ移住地での平松技師講習内容を中心に各種資料を集めてパンフレットを作成する。	全農家又は関係地区	500戸	印刷郵送	事務所	香川		資料蒐集	
	委託栽培農家の技術指導	期間中の気象データーの確保	イポチ組合	1戸	現地指導	イポチ移住地	笹田	イポチ農協	ジープ	

営農普及活動計画表

ポルト・アレグレ支部　　ラーモス移住地駐在員事務所

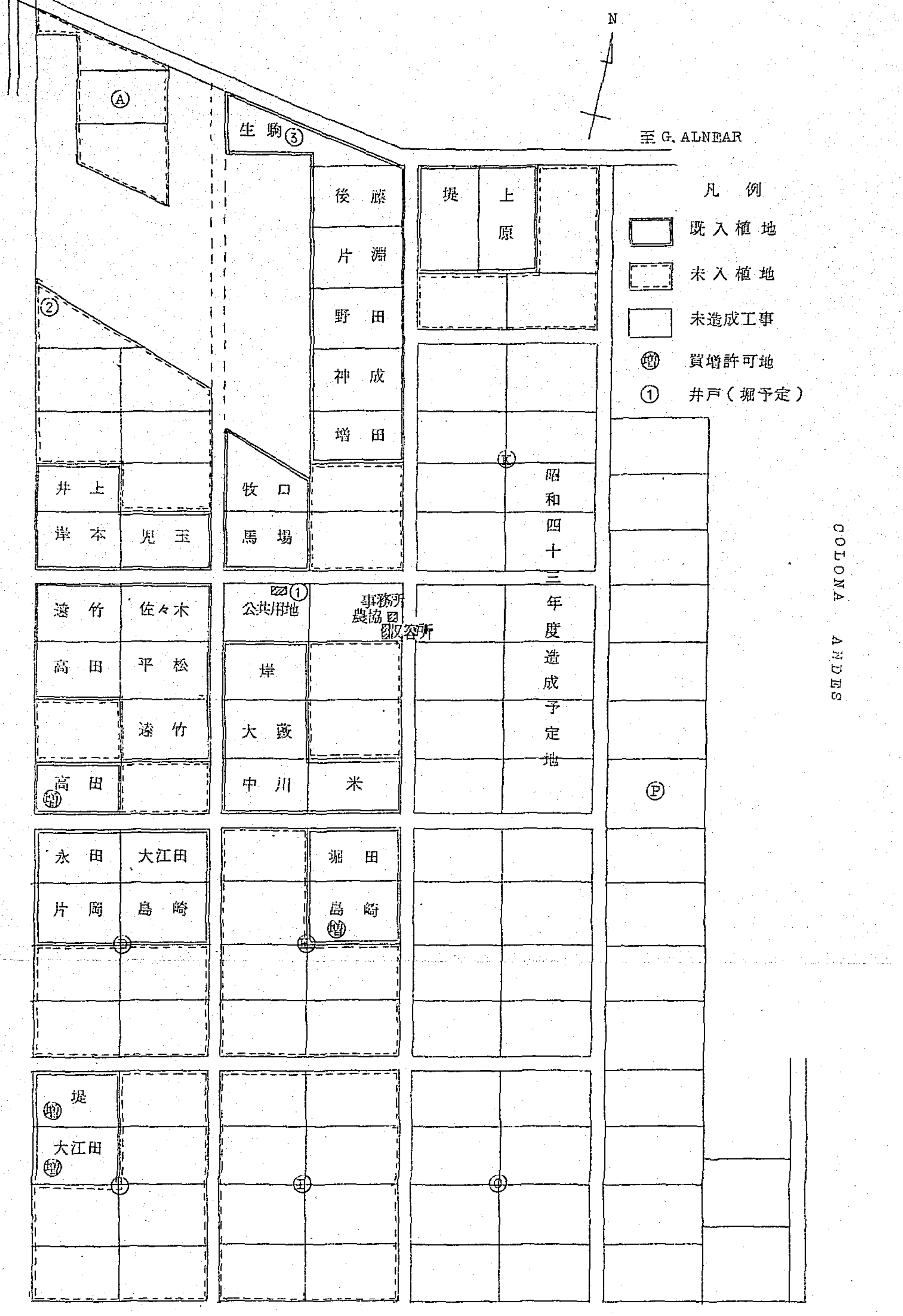
普及指導事項	到達目標	推	
		対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数
乳牛の導入についての検討と指導	営農形態の安定および移住地食生活の改善を考慮して各戸に1～2頭の導入を計る。	移住地青年畜産研究班	
養豚経営の合理化について当面の問題点を検討，対策を指導	飼育方法の改善，優良牡牝母豚の強化と雑種の活用	〃　養豚研究班	
ネクタリンの基本整枝剪定を指導	基礎樹形の確立，剪定法の習得を普及	移住地全入植者	
現地機関の営農融資開拓を指導	各入植者の資金繰状況調査，今後の資金手当の可否について検討	全組合員	
ネクタリンの初収獲物を関係者に贈呈して来るべき市場開拓を指導する	1. 国内産桃と輸入桃の時期別市況調査 2. アルゼンチン国，ウルグヮイ国の立地条件資料蒐集と経済性の比較検討	移住地組合	
	1. サンパウロ，ポルト．アレグレ各市場状況調査	組合理事会	
農家経済調査を集計に経営上の問題点をとりあげ営農懇談会の討議の中心とする	次年度への反省，立案を指導する	移住地営農懇談会	
ラーモス近傍のリンゴ適性調査を行う	サンジョアキン・ラージェス近傍の既成樹の綜合調査と結果の検討	組合理事会	
冬作牧草の積極的な作付を指導（養豚・酪農との関連）	1. 冬期間の牧草需給について各農家の計画を指導 2. 種類別牧草の飼料価値栽培法についての各種現地資料を蒐集	移住地全入植者	
ネクタリンの著名品種を導入して比較研究を指導する。	1. 在ペロッタス果樹試験場の保有品種調査 2. 穂木を確保して芽接を実施育苗する	移住地青年会果樹班	

昭和41年12月現在

進	方	法			
普及の方法	実施場所	担当者	協力機関又は協力者	準備	摘要
現地4Hクラブの指導をうけ，導入は4Hクラブの融資により行う。	オランダ人植民地（パラナ州）	本多	組合，4Hクラブ	4Hクラブ指導技師案内のもとにオランダ人植民地を視察，具体的な検討を行う，ジープ 参考資料の蒐集	
定期研究会で当面の問題点を出し合って討議		本多 香川	組合，小麦植民地担当技師		
講義と実地指導	現地	本多	組合	組合トラック	
移住地組合を通じ各戸別に実施	駐在員事務所，州農務局出張所	本多	組合 IRASC	組合トラック，融資要領書（南3州開発銀行）	
ラーモス移住地，イボチ移住地の各組合に市場開拓に対する認識を啓もうする		本多 笹田	ブェノス・アイレス支部 サンフランシスコ駐在員 日系産組	各協力機関に資料あっせんを依頼	
		本多 笹田		資料蒐集先を検討準備	
	センター	本多 笹田	組合	組合トラック	
	現地	本多 香川	組合	ジープ	
パンフレットの作成配付	現地	本多 香川	組合	ジープ	
特定青年会員の責任育苗	現地	香川	組合ペロッタス試験場	ジープ	

アンデス移住地について

営農普及担当区域略図


N
至 G. ALNEAR
COLONA ANDES
凡 例
既入植地
未入植地
未造成工事
貿増許可地
① 井戸（堀予定）
生駒③
Ⓐ
②
後藤
片淵
野田
神成
増田
堤
上原
牧口
馬場
井上
岸本
児玉
昭和四十三年度造成予定地
公共用地
事務所
農協
収容所
遠竹
佐々木
高田
平松
岸
大薮
中川
米
Ⓟ
永田
大江田
片岡
島崎
堀田
堤

営農環境概況表

ブエノスアイレス支部アンデス事業所

昭41年12月現在

部分		区分	現状	問題点	対策
自然の環境	気象	1. 雨量	雨量の統計がない1方各年ごとに不定であることのみの推定	1. 夏期時の雨量は雹の降る可能性が強いこと。	1. 物理的対策は考えられるも資本等の関係で其の対策実現は困難
		2. 降霜	定期的な傾向が少い，之も統計がない。突然降霜すること多し（3月－10月の間）	2. 永年作物の開花期で其の被害が多い。	2. 霜に対する防止は防風林等の効果は若干考えられる。
		3. 降雹	毎年不定期突然にある。10月－4月の期間で永年，短期作物に対する被害が極めて大きい。	3. 永年作，短期作物の生育中の期間であるが為に被害は極めて大きい。	3. 打上げ花火により雹雲を散らす方法を実施する予定である。
	土質	1. 塩基強し	塩基の極めて強いところが多い。	1. 作物の生育に影響すること多い。	1. 土地の改良中排水溝の整備と粘土層の破壊等は緊急を要する問題であるが資本上，機械力等の関係で困難。
		2. 粘土層と地平水位	地下にある粘土層等の関係で地下水位が割合高い1方潅漑期間（8月－5月）は特に地下水位が高くなり生育期間でもあり被害が表れる。	2. 1.と同様作物の生育に影響が多く特に永年作物に極めて大きい。枯死するものが増大している。（桃杏）	2. 末端的潅漑用水地帯であるから其の用水の塩基含有量も大きいことが予想され特に排水の良い土地の選定が必要。 現状では排水溝の強化が急務。
	用水	潅漑用水	末端的潅漑用水にて其の水質は塩基性分が強いことが推定。	土質の点からしても塩基性分が強く其の上水質も塩基分が強い欠点がある。	1. 距離的な関係で専用の用水路を持たない。故に盗水と漏水は常に予想されるが，専用用水路の建設も考えられる。
		掘井戸の利用	水量が割合に少い。	若干の盗水と漏水がある。	人工井戸を掘って不足水の補給を考慮して着工中で第2の井戸完成に近づく。之の利用により一部の対策は考えられる。

農　作　物　家畜別概況表

ブエノスアイレス支部アンデス事業所　　　　　　　　　　昭和４１年１２月現在

部門		区分	現状	問題点	対策
作物	永年作物	ブドウ	生育，良好	棚仕立，根　仕立の設備費が高額必要。	融資の対象として強力に植付せしめ貸付する。
		桃	生育良不良混合（塩基被害）	塩基と地下水位	
		杏	普通	桃同様考えられるが植付面積少く問題少	
		李	普通	同上	
		アルファルファ	良好	塩害若干ある。	土地の改良によって徐々に植付を拡張して行く。
	短期作物	トマト	生育，良好	天災は別としてネマトーダの発生が見られる。化学肥料の使用が多い為に土地力の荒廃可能性が強い。	新品種の選定。
		ピーマン	同上		有機質利用使用の増加。
		玉葱	同上	同上	
家畜		馬	農耕馬として使用	飼料の必要と利用期間が少い。	1. 機械力の使用拡張一方アルファルファの植付拡張（堆肥を製造すること）
		豚	食糧及販売用として飼育	飼料の不足（自給しない）	2. アルファアルファアの植付増加利用
		鶏	各家庭飼育中	飼料の不足（自給出来ない）	3. 家庭使用のみとして
					4. 食生活改善と自給自足の体制として利用。

改善対策の選定とその性格

ブエノスアイレス支部アンデス事業所

昭和41年12月現在

地区又は区域名	部門	改善上の問題点	同左（問題点）対策	対策の性格 普	調普	試	資	他	実施主体 事	事他	他	可能性 困難度	適用度	効果
アンデス移住地	自然	1. 排水溝の掘下整備 地下水位を下げる。	1. 世政府機関と協力し事業団の資本を持って急速に実施して行く。				○	○		○		C	大	大
		2. 塩基性分の減少をはかる。	2. 粘土層の破壊，地下水位下降其の他			○	○			○		B	中	中
		3. 土地改良（肥沃度の増加）即ち有機質の利用。	3. アルファルファの植付，之の利用		○							A	大	大
	気象	1. 霜害	1. 防風林の植付等で若干防止する。		○				○			A	小	小
		2. 雹害	2. ボンベの利用等物理的作用のみで実際対策はない。					○			○	C	小	小
	営農	1. 自給自足の点，天災に対する短期作物の選定主力をアルファルファにおく。其の所有面積は最低5 Haとする。	1. アルファルファの所有面積の目標を5 Haにする場合の土地面積の不足が生じ考えられる。		○		○	○	○			A	中	中
		2. アルファルファの利用は土地改良に通ずる，一方家畜増加となり自給体制に通ずる。又食生活の改善にも通ずる。	2. 即ち増反による20Ha以上の所有地にすること。		○		○		○			B	大	大
			3. 家畜の導入（牛（乳）豚）		○			○		○		A	中	中
			4. 長期営農計画		○				○			B	中	中
	灌漑用水	1. 増反と用水関係	1. 水の不足と適期の利用（冬の作物栽培が可能）		○		○		○			B	中	中
		2. 井戸（掘下中）の利用	2. 同上に対する関係				○		○			A	大	大

営農普及活動計画表

第 1 表

ポルト・アレグレ支部　　　管内移住者在住地区

昭和41年12月現在

	普及指導事項	到達目標	推			進	方		法		
			対象地区又は研究グループ名	対象件数又は実施回数		普及の方法	実施場所	担当者	協力機関又は協力者	準備	摘要
10	機関紙（新聞）発行による技術普及	気象実績，市況，本期の営農技術，諸農村法規の解説	全農家	500戸		印刷郵送	支部事務所	笹田・香川		資料蒐集	
11	近郊蔬菜技術指導	夏の主要蔬菜病害診断とその対策指導	サンタ・マリア地区	20戸		2～3の農場を巡回して実際指導を行う	現地農家	香川	サンタ・マリア地区営農研究会	ジープ	
			ヴィアモン地区	30戸		〃	〃	笹田	地区日本人会	〃	
			サン・レオ・ポルド地区	20戸		〃	〃	〃	〃	〃	
12	新聞発行による技術普及	気象実績，市況，本期の技術，関係法規の解説，各種統計表	全農家	500戸		印刷郵送	支部事務所	笹田・香川		資料蒐集	
	雑作営農技術指導	農場の現況調査と問題点対策指導	ソール・ナッセンテ農場	10戸		現地指導	現地農場	香川		ジープ	
1	近郊トマトの生産費調査と広報	モデル農家の実態調査を行い資料を集める	ヴィアモン地区	3～5戸		資料を整理の上，印刷配布		笹田・香川			
	農家経済調査結果で経営の問題点を摘出し，機関紙で改善普及をはかる		ヴィアモン地区	28戸			現地・事務所	〃　〃			
	イタリアブドウの開園設計指導	1.各ロッテ調査　2.品種，植付本数，苗木入手等必要事項の検討，3.資金手当の検討	イボチ農協	26戸		各ロッテ毎に実地指導を行う	イボチ移住区	香川	平松薫技師	技師招聘手当と資金手当	
2	機関紙発行による技術普及	気象統計，農産物市況，本期の営農技術，関係法律解説，諸統計資料	全農家	500戸		印刷郵送	事務所	笹田・香川		資料蒐集	
	近郊蔬菜技術指導	秋蔬菜経営の重点事項を検討指導	グラバタイ地区	40戸		標本農家で共同研究	現地農家	笹田	地区日本人会	ジープ	
3	イタリア・ブドウの開園技術について	イボチ移住地での平松技師講習内容を中心に各種資料を集めてパンフレットを作成する。	全農家又は関係地区	500戸		印刷郵送	事務所	香川		資料蒐集	
	委託栽培農家の技術指導	期間中の気象データーの確保	イボチ組合	1戸		現地指導	イボチ移住地	笹田	イボチ農協	ジープ	

営農普及活動計画表

ポルト・アレグレ支部　　ラーモス移住地駐在員事務所

昭和４１年１２月現在

普及指導事項	到達目標	推進方法							
		対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数	普及の方法	実施場所	担当者	協力機関又は協力者	準備	摘要
乳牛の導入についての検討と指導 養豚経営の合理化について当面の問題点を検討，対策を指導	営農形態の安定および移住地食生活の改善を考慮して各戸に１～２頭の導入を計る。 飼育方法の改善，優良牡牝母豚の強化と雑種の活用	移住地青年畜産研究班 〃　養豚研究班		現地４Ｈクラブの指導をうけ，導入は４Ｈクラブの融資により行う。 定期研究会で当面の問題点を出し合って討議	オランダ人植民地（パラナ州）	本多 本多 香川	組合，４Ｈクラブ 組合，小麦植民地担当技師	４Ｈクラブ指導技師案内のもとにオランダ人植民地を視察，具体的な検討を行う，ジープ 参考資料の蒐集	
ネクタリンの基本整枝剪定を指導	基礎樹形の確立，剪定法の習得を普及	移住地全入植者		講義と実地指導	現地	本多	組合	組合トラック	
現地機関の営農融資開拓を指導	各入植者の資金繰状況調査，今後の資金手当の可否について検討	全組合員		移住地組合を通じ各戸別に実施	駐在員事務所、州農務局出張所	本多	組合 IRASC	組合トラック、融資要領書（南３州開発銀行）	
ネクタリンの初収獲物を関係者に贈呈して来るべき市場開拓を指導する	1. 国内産桃と輸入桃の時期別市況調査 2. アルゼンチン国，ウルグヮイ国の立地条件資料蒐集と経済性の比較検討 1. サンパウロ，ポルト．アレグレ各市場状況調査	移住地組合 組合理事会		ラーモス移住地，イボチ移住地の各組合に市場開拓に対する認識を啓もうする		本多 笹田 本多 笹田	ブェノス・アイレス支部 サンフランシスコ駐在員 日系産組	各協力機関に資料あっせんを依頼 資料蒐集先を検討準備	
農家経済調査を集計に経営上の問題点をとりあげ営農懇談会の討議の中心とする ラーモス近傍のリンゴ適性調査を行う	次年度への反省，立案を指導する サンジョアキン・ラージェス近傍の既成樹の綜合調査と結果の検討	移住地営農懇談会 組合理事会			センター 現地	本多 笹田 本多 香川	組合 組合	組合トラック ジープ	
冬作牧草の積極的な作付を指導（養豚・酪農との関連） ネクタリンの著名品種を導入して比較研究を指導する。	1. 冬期間の牧草需給について各農家の計画を指導 2. 種類別牧草の飼料価値栽培法についての各種現地資料を蒐集 1. 在ペロッタス果樹試験場の保有品種調査 2. 穂木を確保して芽接を実施育苗する	移住地全入植者 移住地青年会果樹班		パンフレットの作成配付 特定青年会員の責任育苗	現地 現地	本多 香川 香川	組合 組合ペロッタス試験場	ジープ ジープ	

営農環境概況表

ブエノスアイレス支部アンデス事業所

昭41年12月現在

部分		区分	現状	問題点	対策
自然の環境	気象	1. 雨量	雨量の統計がない1方各年ごとに不定であることのみの推定	1. 夏期時の雨量は雹の降る可能性が強いこと。	1. 物理的対策は考えられるも資本等の関係で其の対策実現は困難
		2. 降霜	定期的な傾向が少い，之も統計がない。突然降霜すること多し(3月－10月の間)	2. 永年作物の開花期で其の被害が多い。	2. 霜に対する防止は防風林等の効果は若干考えられる。
		3. 降雹	毎年不定期突然にある。10月－4月の期間で永年，短期作物に対する被害が極めて大きい。	3. 永年作，短期作物の生育中の期間であるが為に被害は極めて大きい。	3. 打上げ花火により雹雲を散らす方法を実施する予定である。
	土質	1. 塩基強し	塩基の極めて強いところが多い。	1. 作物の生育に影響すること多い。	1. 土地の改良中排水溝の整備と粘土層の破壊等は緊急を要する問題であるが資本上，機械力等の関係で困難。
		2. 粘土層と地平水位	地下にある粘土層等の関係で地下水位が割合高い1方灌漑期間(8月－5月)は特に地下水位が高くなり生育期間でもあり被害が表れる。	2. 1.と同様作物の生育に影響が多く特に永年作物に極めて大きい。枯死するものが増大している。(桃杏)	2. 末端的灌漑用水地帯であるから其の用水の塩基含有量も大きいことが予想され特に排水の良い土地の選定が必要。現状では排水溝の強化が急務。
	用水	灌漑用水	末端的灌漑用水にて其の水質は塩基性分が強いことが推定。	土質の点からしても塩基性分が強く其の上水質も塩基分が強い欠点がある。	1. 距離的な関係で専用の用水路を持たない。故に盗水と漏水は常に予想されるが，専用用水路の建設も考えられる。
		掘井戸の利用	水量が割合に少い。	若干の盗水と漏水がある。	人工井戸を掘って不足水の補給を考慮して着工中で第2の井戸完成に近づく。之の利用により一部の対策は考えられる。

農　作　物

ブエノスアイレス支部アンデス事業所

部門		区分	現状
作物	永年作物	ブドウ	生育，良好
		桃	生育良不良混合（塩基被害）
		杏	普通
		李	普通
		アルファルファ	良好
	短期作物	トマト	生育，良好
		ピーマン	同上
		玉葱	同上
家畜		馬	農耕馬として使用
		豚	食糧及販売用として飼育
		鶏	各家庭飼育中

家畜別概況表

昭和41年12月現在

問題点	対策
棚仕立，根　仕立の設備費が高額必要。	融資の対象として強力に植付せしめ貸付する。
塩基と地下水位	
桃同様考えられるが植付面積少く問題少	
同上	
塩害若干ある。	土地の改良によって徐々に植付を拡張して行く。
天災は別としてネマトーダの発生が見られる。化学肥料の使用が多い為に土地力の荒廃可能性が強い。	新品種の選定。 有機質利用使用の増加。
同上	
飼料の必要と利用期間が少い。	1. 機械力の使用拡張一方アルファルファの植付拡張（堆肥を製造すること）
飼料の不足（自給しない）	2. アルファルファの植付増加利用
飼料の不足（自給出来ない）	3. 家庭使用のみとして
	4. 食生活改善と自給自足の体制として利用。

営農普及活動計画表

ブエノスアイレス支部アンデス事業所

昭和41年11月現在

普及指導事項	到着目標	推進方法							
		対象地区名	対象件数 実施回数	普及の方法	実施場所	担当者	協力機関 協力者	準備	摘要
1. 自給自足の短期作物をアルファルファを主体とする。経営形態との関係を考慮して出来得るだけ播種し増殖を考える。 各入植者アルファルファの最低植付面積を5Haとする。	1. 全コロノスに対し普及指導を行い目標5Haを速かに実施せしめる計画を検討 2. 土地の改良を考慮して適当地を選定	全戸	2回位	農協営農部を通じて普及実施する	各戸別に訪問実施普及する。		農協営農指導部		営農資金の融資と関連性を持って行う。
2. 短期作物中，トマトの新品種，ネマトーダに強い品種を試作中（INTA指導）	在来種との比較試験 在来 新品 （ローマ）；（ロニータ）	26世帯中 2世帯のみ	9月 ～4月	I.N.T.A.の指導のもとにおいて農協を通して行う。	対象試作農園で		農協営農指導部	苗床生育 植付方法(耕起) 生育状況	INTAの指導で新品種ロニータを試作中

営農普及活動　実施報告書

ブエノスアイレス支部アンデス事業所

自昭41.4.1至同41.9.30

普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数	成果：当初目標	成果：実現した成果	成果：実現出来なかった要因	営農指導費より支出した金額	摘要
1. 該当農家個別に訪問調査（自給自足体制）	1. 各個別に訪問，又は農協の定例常会の時に（毎月1回）普及実施する。	全戸対象	毎月実施する	1. 訪問調査	1. 90%			当移住地の自給自足の体制が欠けていた為に天災等による被害は生活面にまで極めて大きく影響する。 故にアルファルファの植付を強力にすすめ之によって自給自足の営農形態とすべく普及活動の中心とした。 土質の改良も自ずと実施できる。
2. アルファルファの5Ha植付計画の実施と家畜の関係	2. 一方長期営農資金の貸付の調書の作成上の調査時を兼ねて其の機会を利用			2. 目標5Haの必要性に協力し賛同は認める。	2. 85%（但し目標に向って）	土地面積の不足によるもの20%近い		
3. 土地の改良の必要性	3. INTAの技師の直接指導			3. 必要性は認める。	3. 30%	資金の不足の為と長期的な計画の必要がある。		
4. 永年作物の主体をブドウ中心とする融資との関係				4. 本農年植付実施目標は各戸平均して2Ha以上	4. 93%但し貸付対象者	◎融資調書作成中で申請完了其の貸付許可を待つのみ		
（附記） 短期作物トマトの新品種の試作	農協営農部中心となり当所とINTAの協力に	2戸		試作中で（ネマトーダに対する強い品種）	100%生育し良好			ネマトーダの被害が多いので之に対する新品種の試作を実施中

営農普及活動計画表

ブエノスアイレス支部アンデス事業所

昭和４１年１１月現在

普及指導事項	到着目標	推進方法							
		対象地区名	対象件数 実施回数	普及の方法	実施場所	担当者	協力機関 協力者	準備	摘要
1. 自給自足の短期作物をアルファルファを主体とする。経営形態との関係を考慮して出来得るだけ播種し増植を考える。 各入植者アルファルファの最低植付面積を５Haとする。	1. 全コロノスに対し普及指導を行い目標５Haを速かに実施せしめる計画を検討 2. 土地の改良を考慮して適当地を選定	全戸	２回位	農協営農部を通じて普及実施する	各戸別に訪問実施普及する。		農協営農指導部		営農資金の融資と関連性を持って行う。
2. 短期作物中，トマトの新品種，ネマトーダに強い品種を試作中（INTA指導）	在来種との比較試験 在来　新品 （ローマ）；（ロニータ）	２６世帯中 ２世帯のみ	９月 ～４月	I.N.T.A.の指導のもとにおいて農協を通して行う。	対象試作農園で		農協営農指導部	苗床生育 植付方法(耕起) 生育状況	INTAの指導で新品種ロニータを試作中

営農普及活動実施報告書

ブエノスアイレス支部アンデス事業所

自昭41.4.1至同41.9.30

普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数	成果 当初目標	成果 実現した成果	成果 実現出来なかった要因	営農指導費より支出した金額	摘要
1. 該当農家個別に訪問調査（自給自足体制）	1. 各個別に訪問，又は農協の定例常会の時に（毎月1回）普及実施する。	全戸対象	毎月実施する	1. 訪問調査	1. 90%			当移住地の自給自足の体制が欠けていた為に天災等による被害は生活面にまで極めて大きく影響する。 故にアルファルファの植付を強力にすすめ之によって自給自足の営農形態とすべく普及活動の中心とした。 土質の改良も自ずと実施できる。
2. アルファルファの5Ha 植付計画の実施と家畜の関係	2. 一方長期営農資金の貸付の調書の作成上の調査時を兼ねて其の機会を利用			2. 目標5Haの必要性に協力し賛同は認める。	2. 85%（但し目標に向って）	土地面積の不足によるもの20%近い		
3. 土地の改良の必要性	3. INTA の技師の直接指導			3. 必要性は認める。	3. 30%	資金の不足の為と長期的な計画の必要がある。		
4. 永年作物の主体をブドウ中心とする融資との関係				4. 本農年植付実施目標は各戸平均して2Ha 以上	4. 93% 但し貸付対象者	◎融資調書作成中で申請完了其の貸付許可を待つのみ		
（附記）短期作物トマトの新品種の試作	農協営農部中心となり当所とINTAの協力に	2 戸		試作中で（ネマトーダに対する強い品種）	100%生育し良好			ネマトーダの被害が多いので之に対する新品種の試作を実施中

営農担当者の体制

ブエノスアイレス支部

昭和４１年１２月現在

氏名	所属事業所	年令	普及活動経験年数	担当農家戸数	担当面積	普及上の機動力	摘要
栄　平三	アンデス事業所	４１才	８ケ年目	２６戸	６５０Ha	Jeep	当所アンデスには５ケ月のみである。がガルアペー移住地７年半，他業務兼任で専任出来ない（３０%位） 事業所管理全般的，融資，其の他兼務。

普及活動上の反省と所感

小職当移住地に正式に着任したのが７月上旬であり，当時の移住地の現況からして，去る３月１５日の降雹被害は割合大きかったので其の対策には緊急を要するものもあったが，今后の営農形態を変更し之に融資による営農方法を合した普及活動を行った。

即ち当移住地は短期作物たるトマト，ピーマン主体の営農形態で多分に投機的な方式であった事実が度重なる天災（雹，霜害）によってうけた被害は極めて大きかった。時には食生活にこと欠くことも多い結果となった。一方短期作物栽培主体は土地の荒廃に通じ其の事実も表れた。又各人所有する面積の内２０%から４５%の部分が塩基成分が強く地下水位も高い為に直に使用不可能であった。

故に面積の面からして植付制限が強制される結果となった。

当所は上記現況に対象して下記問題点を考慮し対策普及の主体としたのである。

1. 入植当初からして自給自足の体制に欠くものがあり天災に対する対策に欠けていた。
2. 短期作物主体を変更し主体を永年作物植付と多年性作物のアルファルファの植付においた。（最低５Ha分）
3. 土地の改良（経済的な使用）が必要であり特に有機質肥料分の不足が目立っている。（荒廃地化しつつある）。
4. 多分に投機的営農であり，自給自足を中心とした長期計画に欠けている。

上記問題点を主として普及指導して来たが既に耕作面積の荒廃化に近い部分も見られたが各方面からして１０Haの面積中使用不可能地を計画すれば実際に耕作面積が少い結論となって表われる。故に１ロッテ増反の必要が緊急な問題となる。一方地下水位の高サ，塩基の強サ，之に対する対策は資本金の問題であり営農の普及活動としては不可能で事業団として直接強力に対策をたてて吾々普及者と協力し同時に行う必要が痛感される。

営農の担当が専任でない為に其の時間的余裕が少いことは計画あって実際実施不可能の現況であり之も大きな問題点である。

もっと普及に時間を望みたい。

ガルアペー移住地について

営農普及活動計画表

ブエノス支部　ガルアペー事業所

昭和４１年１１月１日現在

月別	普及指導事項	到着目標	推進方法							
			対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数	普及の方法	実施場所	担当者	協力機関又は協力者	準備	摘要
１１	畜産加工について	燻製施設新設 1.5m×1.5m（高さ2m）１ケ所	畜産部会	12月中完成	豚，牛肉の加工物による食生活改善	第８６小学校内公共用地	山　崎	農協及事業団		支出 10,000ペソ予定
１２	直販所開設に伴い，蔬菜販売方法，荷造方法等について	特にトマト，蔬菜，パイン等の荷造，種下し，集荷方法	蔬菜園芸部会	１回又は２回	ポサーダス栽培者との検討会	第１回ポサーダス予定	山　崎	農協及事業団		
42/1	肉牛購入実地見学	４２年１月約３０頭導入予定	畜産部会	２～３回		ポサーダス及コリエンテス	山　崎及関谷	農協及事業団		
2	婦人部による畜産加工実習	豚肉加工，燻製等実習	婦人部	２　回	食生活改善のため	第８６小学校公共用地	山　崎	事業団		講師依頼の予定
2	農業機械利用，農薬肥料等について		中堅青年層	1回（10日間）		エルドラード農学校	関　谷	事業団		
3	紅茶加工，良種入手	４２年度播種用種子入手	中堅青年層及成年希望者	２日間		オベラ農事試験場	山　崎	事業団		

営農普及活動実施報告書

ブエノス支部　ガルアペー事業所

昭和41年9月末現在

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数	成果：当初目標	成果：実現した成果	成果：実現しえない要因	支出金額	摘要
4	肉豚，肉牛飼育方法（特に病気，経営方法）	パ支部小野技師による講義実地説明	畜産希望者	1回(2.5日)					
8	牧場造成，肉牛導入融資購入方法，病気対策等について	事業団側説明，各人の研究意見による検討会	畜産部会結成（24名）	1回（5時間）	'66年度中約30頭肉牛購入予定（購入時期67年1月）				
8	紅茶振興方法について（計画等作成）	検討会	紅茶部会結成	1回（4時間）	'67年度20ha増反計画（品種の統一の為良種入手方手配）				
9	肉豚加工実習		畜産部会員（9人）	1日（15時）				農協を通じて約5,000ペソ	
9	柑橘振興方法について（特に肥料共同購入，農薬撒布用機械購入等）	検討会	柑橘部会（15人）	1日（5時間）					
7	蔬菜園芸部結成について	販売ルート，加工，栽培作物等について		1日（4時間）					
9	農業機械化のための実地指導	トラクトールによる実地実習委託	希望者特に柑橘部会員（23人）	1日（3時間）	機械化による労働節約化を目標				